

「綱引き日本一」 3連覇から30年 「ふるさと置戸会」は結成30周年

ふるさと置戸会事務局長 坂本 登



昭和59年（1984）2月12日、ふるさと置戸の猛者が編成された「置戸人間ばん馬」チームは、「全日本綱引き選手権大会」で3連覇を果たしました。この大会は昭和56・57・58・59年から開催されていますが、同チームは、第2回から第4回大会を連続制覇したほか、準優勝が1回、第3位が1回と、輝かしい成績を残しております。このチームの編成や指導に貢献された、故山本佳一氏が大会を主催する「日本綱引き連盟」審判員として活躍され、さらには役員にも就かれた記憶はいまだに新しいものがあります。

この間、本会の創設者である故武田勝雄会長は、毎年、東京近郊に在住する置戸町出身者に、応援への参加を呼びかけられました。こうした故人の熱意と公式大会の栄えある3

連覇が、「ふるさと会をつくろう」との気運を一気に高揚させました。同年4月にはふるさと会を結成すべく発起人会が開催され、半年後の、同年11月18日には東京「ふるさと置戸会」の設立をみたのです。

爾来数えて、来年が30周年にあたります。このため本会では、平成26年1月に開催予定の集いを「ふるさと会結成30周年記念」として実施することとしています。是に向け本会役員は目下、集いの企画に新機軸を練るとともに、「参加者全員にお土産を」提供できるよう、協力・協賛団体の発掘に努めています。

岩内、黄金の30年

東京ふる里岩内会（岩内町郷土館館長） 坂井 弘 治



明治20年頃から大正10年頃までを、私は「岩内、黄金の30年」と呼んでいるが、写真は其の象徴である。道路（浜通り、現在は中央通り）の奥は港で、この写真は明治40（1907）年頃のものと思われるが、岩内山を背にして撮られている。左側には、当時後志一と言われていた料亭「金精楼」の塀が柳の木陰から見え、通りは人出が多く賑わっている。通りの左側には、電信線・電話線・電灯線等を架線した電柱が並び、その下を馬車鉄道が走っている。今から100年以上も前の市街写真の光景としては、北海道は勿論、本州

方面でも極めて珍しいものだと思っている。この時期、明治38（1905）年7月には、函館に次いで2番目の馬車鉄道が小沢駅まで開通する。これは大正元（1912）年11月の国鉄岩内線開通に繋がっていく。明治39（1906）年10月には、北海道最初の水力発電による電灯が灯り、明治40（1907）年には、日本で最初の自費による漁港修築第一次工事が始まっている。

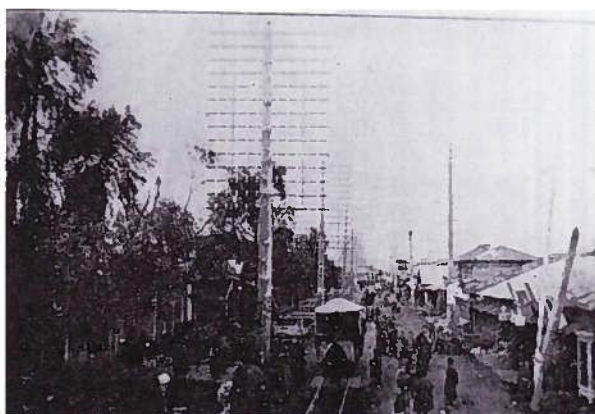
これらの事業に集まってきた労働者とその家族で人口は急速に増え、明治42（1909）年には2万人を超える。当然、子供たちも増えたため、小学校（「橋尋常小学校」）昭和20年代の岩内協会病院、現在の社会福祉センターの所）が増設され、小学校は3校になった。三つの事業にかかった経費は莫大なものであり、合計71万円。明治35・40年頃の岩内の大工の賃金は一日60銭、平成18（2006）年で1万2千円なので、2万倍になっている。これで計算すると、約140億円の金をかけている。水力発電と馬車鉄道は、利用料金でなんとか賄えるが、築港にかかった110億円（第二次第三次は除いている）は町債で賄っている。

なぜ岩内は、この時期無謀とも思えるような大事業を立て続けに行ったのであろうか。紙面の関係で最大事業であった「岩内漁港修築事業」のみ紹介する。

- 1 江戸末期から石炭の積出港として
- 2 明治中期からは漁船の安全操業のため
- 3 本州からの運賃の低額化のため

1・2は従来言われてきたことだが、3については最近判明したことである。明治34（1901）年の「岩内沿革調査」では、北陸から見て、岩内より70海里遠い小樽港への、米100石分の運賃が通年35円なのに対し、岩内港は夏季25円だが冬季になると80円から90円と一定せず、最高では150円にもなる。なぜこうなるか。岩内は港がないため沖どまりで荷物の積み下ろしをする。その場合荒天では作業が中止となり、海がなざるまで作業ができず経費が高む。これを打開するためには、港がぜひ必要であるということになったのだ。事実、町債返還の資金の一つに入港料・係留料が見込まれている。勿論、返還資金の大部分は鯨漁から上がってくる税収だ。

岩内人の心の奥底に、明治初年には岩内より小さな漁師町だった小樽への対抗心があったのではないか、と思っている。



電信線の多いのが目立つ、当時の岩内市街



北海道から世界に伝えます
日本の心・日本の味

From Hokkaido to the World
: The Heart and Flavor of Japan

木綿屋男山本家
男山株式会社

北海道旭川市永山2条7丁目1番33号
TEL 0166-48-1931

<http://www.otokoyama.com/>